
あゆみ保育園

令和5（2023）年度 福祉サービス第三者評価結果報告書

1. 東京都第三者評価推進機構提出内容（公表対象）
2. 利用者調査結果（非公表）
3. 職員自己評価結果（非公表）



1. 東京都第三者評価推進機構提出内容



1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの命を守り、心を育てる 2) 保護者と一緒に子供を育てていく 3) 地域の子育てセンターとして、信頼され、愛される保育園を目指す 4) 子どもとともに遊び、喜び、感動する 5) 食の大切さを理解して、生きる力を育てる
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1) 職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者に対して、自分たちから明るく声掛けをする ・モンテッソーリ教育を推進できる ・職員同士が協働し合える ・保護者と一緒に子供を育てていける ・子ども一人ひとりの個性を認めることが出来る <p>(2) 職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よい環境を提供し、子どもの成長を促し、より良い未来へ貢献できる ・日本の自然、文化、伝統、歴史を大切にできる保育ができる ・社会に貢献できる子どもたちを育成していく ・地域の人々と一緒に活動し、社会貢献できる ・保護者の就労の援助ができる

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	食育として、多様な経験と学びの機会を設ける事で、子どもが食事を楽しみながら食に関心を持てるように工夫しています
	内容	和食中心の食材で季節感のある献立にし、子どもの成長に必要な栄養素や硬さ、色彩、味などから五感の発達も加味した食事を提供しています。四季に応じて行事や誕生会などに合わせた行事食を工夫し、食事の楽しさも伝えていきます。郷土料理やかまど使用体験、野菜栽培、食材に触るなどでも、食への関心を深めています。年齢に合わせた食事マナーや健康とのつながりも伝えていきます。給食日よりでは、コラムで食や育児の情報を提供しています。自分が食べられる量を知り、残食を出さない「食品ロス削減」にも努力しています。
2	タイトル	ホームページでは写真を使って、ていねいな説明で、園の情報がわかりやすく伝わるよう工夫しています
	内容	ホームページは園の情報がわかりやすく伝わるように工夫しています。保育理念や保育方針、ビジョンを示し、縦割り保育でのねらいもていねいに示しています。専門講師の体操指導や英会話の様子も写真でイメージができます。保健指導、モンテッソーリ教育の紹介では園の特徴もわかりやすく表しています。ブログには園日より、給食日より、献立表、ほけん日より、乳児・幼児クラス日より掲載し、活動の様子なども写真とともにていねいに説明しています。利用希望者にとって、閲覧したいところがすぐ見られるような構成にしています。
3	タイトル	SDGsに関心を持ち、生活のさまざまな部分でその考え方を導入して意識を高めていく工夫をしています
	内容	園では子どもとともにSDGsについて考える方針を立て、実践しています。子どもには絵本や紙芝居で意識を伝えていきます。給食で食品ロス削減を目指し、取り組んだクラスは好きなメニューをリクエストできるといった事も行っています。子どもたちが自分で食べられる量を考え、盛り付けを調整するなどしています。また、コンポストで生ゴミからの堆肥作りに取り組み、食の循環の学びにもつなげています。さらに園として各おたよりの電子化や、電子連絡帳の導入などでペーパーレス化を図り、保護者の利便性にもつながっています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	大規模災害への遭遇に対しては保護者や地域の子育て支援の観点から、業務継続、復旧面での具体的な計画の充実を望みます
	内容	災害への対応としては、危機管理マニュアルが整備されています。この中には想定されるリスクごとに、全ての子どもたちの安全を守り保護者に無事引き渡すまでの指揮、連絡、役割体制や行動内容などが明記されています。また、発生からの経過時間や日数を追った対応計画もまとめてあります。その中に保育園再開の組織作りも含まれており、業務継続(BCP)を視野に入れたものとなっています。今後は安全確保に加えて、保護者、地域への子育て支援の観点で、業務継続、早期復旧についてのさらなる充実を期待します。
2	タイトル	現場職員の高い意欲を維持、向上していくために、さらに経営層との相互理解を深めるコミュニケーションを期待します
	内容	現場の職員は、園が力を入れて目指す保育の方向性を理解し、意欲を持って実践につなげています。それを保護者も感じ取る事ができて、モンテッソーリ教育をはじめ、子どもの興味、関心や自主性を尊重している事などを評価する声が寄せられています。一方、職員としては園の働きやすい職場作りへの取り組みを理解しつつも、人員不足への対応や、現場状況の相互理解など、経営層との細かいコミュニケーションを望む様子が見られます。例えば日常でのより有効な声かけや、新たな観点での面談テーマなど、コミュニケーションへの工夫を期待します。
3	タイトル	守秘情報の管理体制は安全に運営されていますが、世の中の動きに合わせて誓約書締結といった手続き面での徹底を進めると良いでしょう
	内容	個人情報を含めて守秘情報の取り扱いについては、就業規則や個人情報保護方針などを基に、入職時での説明や、年度初めの職員会議で周知徹底しています。日常でも、スマートフォンの操作や、職員同士の会話でのやり取りなどについての配慮を随時促して、遵守意識を浸透させています。ただし、昨今は全国において個人情報の漏えい事例が相次いだ事などにより、世の中の監視も厳しさを増し、今後ますます厳格な姿勢が求められます。職員との誓約書締結といったような、手続き面での徹底もさらに進めていく事を期待します。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル①	子ども同士が互いの個性を認め合い、自らの個性を伸ばしていく環境作りを行っています	
内容①	<p>乳児(1,2歳児)と幼児(3~5歳児)はそれぞれ、縦割り保育を導入しています。異年齢で関係性を深め、年上の子どもの対するあこがれや年下の子どもへの思いやり、そして認め合う心を育てています。また統合保育も取り入れ、配慮が必要な子どもとの間で、互いの個性を受け入れ、学び合い成長しています。さらに毎日の活動はモンテッソーリ教育の「おしごと」から始め、一人ひとりが興味のある活動を自分のペースで行う事で、個性を伸ばしています。このように保育環境と教育の両面から、個性を尊重し自らの個性を伸ばす保育を実践しています。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル②	配慮が必要な子どもへの支援について学びと実践を深めています	
内容②	<p>困難があり、配慮や支援が必要な子どもは全国的に増加傾向にあり、対応ニーズが高まっています。園では多様なケースに対してより手厚く対応できる力が必要と考え、専門家の知見を借り、器具を活用するなどして学びと実践に取り組んでいます。日常の保育業務がある中で取り組んでいくには、実践のための体制がポイントとなり、スタート時は専従のリーダー職員が中心となって取り組みました。より効果的に進められるように、現在は体制の取り方をさらに見直して、複数職員による協働体制を検討し継続していく事としています。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル③	子どもの主体性を尊重する保育を育み、実践を通して深めています	
内容③	<p>子どもの主体性を育む保育に力を入れています。子どもに教えて想定した形に導くのではなく、興味のある事など子どもの意思を尊重しています。子ども自身が決めた事を自分の力でやり、保育者はさまざまな観点で配慮し援助するという形で関わっています。同時に、なぜそうするのかなどについても問いかけ、考えて行動するようにも配慮しています。これによって子どもの活動の様子や作品に、個性豊かな創意工夫が見られるようになってきました。現在は運動会の演目、毎日の活動、遠足の行先などについても、子どもの思いを多数取り入れています。</p>	

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目 カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	あり	◆1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	あり	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	あり	◆1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている
	あり	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	あり	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている
	あり	◆2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している
	あり	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている
	カテゴリ1の講評	
	園の理念や方針などについて、さまざまな機会職員、保護者への周知を図っています 園の保育に対する考え方は、経営理念として園の価値観、保育理念、保育方針等を明確に定めています。職員にはこれらを入職時に説明するとともに、毎日の朝礼で唱和しています。また年度初めの事業計画会議では、文書として配付し全員で確認して理解を深めています。園の廊下や事務室にも掲示し、日常の業務時にも折に触れて振り返る事で浸透を図っています。保護者に対しては、園のしおりの冒頭に明記して伝えています。また、園内掲示とともにホームページにも打ち出す事で、より広く浸透するように努めています。	
	園長は、園の目指す方向性を率先して示す事でリーダーシップを発揮しています 園の経営層は、園長、副園長、主任です。園長は各種会議などで職員に対して随時、自らの役割として、市の保育関連機関などとも連携して地域全体の視野で園の保育運営を統括する役割がある事を伝えています。そのうえで、園長、副園長ともに園の保育の特色であるモンテッソーリ教育の資格を取得するなど、保育の方向性を自ら率先して示しています。園長は、理念や方針に基づいた実践を積み重ね、園のビジョンである「地域に根ざした子育てセンター」としての存在を目指していく事を強く伝えて、園の保育をリードしています。	
	重要案件については、規模や内容に応じて適切なプロセスで検討し決定しています 重要案件に関しては、規模や内容によって検討、決定プロセスを決めています。工事などの大規模投資案件や園経営に大きな影響のある案件は、経営層で検討し法人が決定しています。職員配置や運動会などの行事内容については園内で検討して決めています。保育活動内容に関する案件では、職員の意見を積極的に聴取します。決定内容は、職員会議にて経緯とともに伝えていきます。保護者には毎月のお便りや必要に応じて文書で伝えます。過去、園舎移転の際に行ったように、緊急保護者会を実施し、直接伝えて理解を求めるケースもあります。	
	カテゴリ1の講評補足	
非公表コメント		

カテゴリ-2

2 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行

サブカテゴリ-1(2-1)

事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6

評価項目1

事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している

評点(000000)

評価	標準項目
あり	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している
あり	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している
あり	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している
あり	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している
あり	5. 事業所の経営状況を把握・検討している
あり	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している

サブカテゴリ-2(2-2)

実践的な計画策定に取り組んでいる

サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5

評価項目1

事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している

評点(000)

評価	標準項目
あり	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している
あり	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している
あり	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている

評価項目2

着実な計画の実行に取り組んでいる

評点(00)

評価	標準項目
あり	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している
あり	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる

	<p>カテゴリー2の講評</p> <p>保護者や職員の意向は、日常のコミュニケーション、面談、会議で把握しています</p> <p>保護者の意向については、日常のコミュニケーションのほかでは、年に1度、個人面談を行って意見や要望を収集しています。また、大きな行事でアンケート調査を行って翌年の行事の際に生かしています。通用門の脇に「ふくろうあさん」という意見ポストを設置していますが、投函はほとんどなく、意見や要望などは職員が直接受けています。職員の意向においても日常のコミュニケーションでの把握を重視しています。また、月に1回の職員会議、リーダー会議、主任会議などでそれぞれの立場の意見として聴取し、必要に応じて検討しています。</p>
公表コメント	<p>子育てに関する地域ニーズや全国動向は、関連機関などから把握しています</p> <p>地域の子育てについての状況は、市の行政や各種関連機関、園長会などと情報交換を行いながら把握しています。また、園長が他園の法人の理事でもあり、地域の会議体の役員でもあるので、保育事業全体の動向という視野にも立って、ニーズの把握に努めています。具体的には、地域の危険な公園についての情報や少子化における園児数減の問題、コロナ禍動向への対応のほか、「子ども誰でも通園制度」が話題によっています。このような中で当園としては、子ども主体の保育をさらに進めていく事を課題の一つとして捉えています。</p>
	<p>中・長期計画の重点事項に深く連動して、単年度計画を策定しています</p> <p>園では、中・長期計画として2020年を起点に2030年までの長期、2024年までの中期ビジョンが策定されています。それを踏まえて単年度計画が細まっています。これらの計画は、モンテッソーリ教育、業務効率化、リスク対策、地域社会とのつながり、発達障がいへの対応など、重点的な取り組み事項で連動しています。計画に沿って職員は個々に「目標管理シート」を作成します。この目標管理シートを基に経営層と職員が年2回面接を行い、個々の達成状況を把握します。それらを積み上げて、園全体の事業計画の達成度として受け止めています。</p>
非公表コメント	<p>カテゴリー2の講評補足</p>

3		カテゴリ-3	
経営における社会的責任			
サブカテゴリ-1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2	
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
あり	◆1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる		
あり	◆2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している		
サブカテゴリ-2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4	
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
あり	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		
あり	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
あり	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		
あり	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		
サブカテゴリ-3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
あり	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		
あり	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している		
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている 評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
あり	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		
あり	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		
あり	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		

	<p>カテゴリー3の講評</p>
	<p>法や規範、ルールについては守るべき事項を明確に示し、遵守の意識を高めています</p> <p>職員の心得については、園の服務規律に遵守事項が定められ、これらについて職員は入職時に説明を受けます。また年度当初の職員会議で、園長からも伝えていきます。日常においての言葉遣いや子どもとの関わり方、服装などについては毎月の職員会議にて職員同士で話し合っています。園の苦情解決制度については、園のしおりに受付担当者、責任者及び園外の相談先の第三者委員、電子メールや通用門わきの投函ポスト「ふくろうかあさん」を明記しています。園だよりや玄関への掲示などでも周知を図り、速やかな解決体制を整えています。</p>
公表コメント	<p>虐待防止については具体的な事例で話し合い、職員も自身の言動を振り返っています</p> <p>虐待防止については、各地で課題になっている不適切保育に関連させて、会議で事例などを取り上げ、職員同士で防止のための意見を交わしています。支援が必要な家庭や子どもを対象とした「支援会議」でも、具体的なケースを挙げて虐待防止について話し合っています。また虐待対応マニュアルとチェックリストで、理解を深めつつ自身の言動も振り返っています。家庭での虐待の疑いが見られた時は、担当者が園長に相談します。その後看護師とともに子どもの様子を確認して検討し、必要に応じて関連機関とも連携しながら、対応にあたります。</p>
	<p>園の保育活動のノウハウを生かして、地域の子育て支援に積極的に取り組んでいます</p> <p>保育園に通っていない子どもを対象に「あゆみ広場」を実施し、園庭の解放、保育体験、育児相談などを行っています。園の特色であるモンテッソーリ教育の体験、給食試食会、各種製作活動など、楽しい活動を豊富に用意しています。今年度の12月はパネルシアターや親子ゲームなどを楽しむクリスマス会、人形劇鑑賞などを行いました。また、地域の子育て支援の場に出向いての出前保育も行っていきます。さらに、関連機関や会議体などとの交流を通して、地域の課題や子育て支援イベントなどにも協力して取り組んでいます。</p>
非公表コメント	<p>カテゴリー3の講評補足</p>

4	カテゴリ-4	
	リスクマネジメント	
	サブカテゴリ-1(4-1)	
	リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる	
	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5	
	評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる	
	評点(〇〇〇〇〇)	
	評価	標準項目
	あり	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている
	あり	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている
あり	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	
あり	◆4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解し対応できるように取り組んでいる	
あり	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	
サブカテゴリ-2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		
サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4		
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		
評点(〇〇〇〇)		
評価	標準項目	
あり	◆1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	
あり	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	
あり	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	
あり	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	
カテゴリ-4の講評		
<p>各種リスクについて、マニュアルの定期的見直し、見やすい一覧表の作成を行っています</p> <p>リスク対策の優先順位はリスクの種類でなく、子どもの命の安全を最優先し、想定される事故や災害、感染症、けが、犯罪などへの対応に努めています。対応のための各種マニュアルは年に1回見直しを行い、必要に応じて修正しています。園ではリスクも含めてさまざまなマニュアルが整備されています。このため園の方針として、マニュアルの保管場所は覚えずとも良いように、すぐに取り出せる見やすい一覧表を作成しています。マニュアルの内容は、手順の写真によるビジュアル化やフローチャートの活用で、速やかに使えるように工夫しています。</p>		
<p>リスクへの対応については、発生時を想定して各種訓練を行っています</p> <p>リスク発生に備えての訓練にも力を入れています。毎月の避難訓練では火災、地震などさまざまな発生状況を想定し、実施方法などを綿密に組んだ計画が作られています。訓練後に振り返りや安全教育も行われます。また災害時に備えて、炊き出しや停電時対応の訓練が実施されています。大規模な災害に遭遇した場合の業務継続計画という観点では、保育園再開までを見込んだ危機管理マニュアルが作成されています。安全確保と同時に、働く保護者の子育て支援という観点からも、保育環境の復旧と業務再開までの計画のさらなる充実を期待します。</p>		
<p>個人情報を含めた守秘情報の扱いは、ルールに沿っての実践を徹底しています</p> <p>守秘情報の扱いは、園の就業規則や個人情報保護方針にのっとり、職員には入職時に説明するとともに、年度初めの職員会議でも確認しています。ボランティアにも受け入れ時に説明しています。守秘情報の書類は園長が書庫に施錠管理し、期限が終了したものは裁断機にかけて破棄します。デジタル情報は、パスワード設定でアクセス制限をかけています。また細かい配慮として、会議録等での子どもの名前をイニシャル表記としています。ホームページや配布物への写真掲載など、個人情報の使用については、保護者から承諾書を受けています。</p>		
カテゴリ-4の講評補足		
公表コメント	非公表コメント	

5		カテゴリ-5	
職員と組織の能力向上			
		サブカテゴリ-1(5-1)	
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12	
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
あり	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		
あり	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
あり	◆1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		
あり	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
あり	◆1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		
あり	◆2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		
あり	◆3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		
あり	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
あり	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		
あり	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		
あり	◆3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		
あり	◆4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		
		サブカテゴリ-2(5-2)	
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3	
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
あり	◆1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		
あり	◆2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		
あり	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		

カテゴリー5の講評

採用においては、保育への適正に加えて得意な一面を持った人材も歓迎しています

人材確保としては、園のホームページの「採用情報」やハローワークの活用、養成校への求人、実習生への声かけなどを行っています。採用については面接も含めて副園長が担当し、気軽に問い合わせできるように対応しています。求める人物像はホームページに「明るく、子ども好き、健康、向上心のある人」としています。加えて昨今は、パソコンや音楽についてなど、何か得意な一面を持った人へのニーズを高めています。組織体制として専門リーダー層の充実を目指し、取り組みたい人が名乗り出るような自主性を重視した人材配置を行っています。

職員には自身の展望を意識付け、研修を含めて個別の指導に重点を置いています

園では各職層の園内での位置付けを図示した「キャリアパス階層図」が作成されています。これを事務所内にも掲示する事で、職員が展望を持って研鑽を積んでいく事への意識付けが行われています。研修は保育の質の向上、安全面の向上、地域機関との連携の大きく3テーマに沿って、キャリアアップやモンテッソーリ教育など各種研修計画が年間で組まれています。それらを踏まえて、職員個々に育成のための「能力向上目標シート」を作成し、自己チェック、設定した目標に対しての進捗などを記載し、それを基に年2回、面談時に指導、評価がなされます。

職員の意欲アップを重視した評価、職場環境作り、組織力の強化に努めています

職員の評価は、個々に作成した「目標管理シート」を基に年2回の面談で行われます。設定した計画やその進め方について上司と振り返り、評価がなされ、賞与と昇給に反映されます。目標設定、評価とも、職員自身の意向や自己評価を踏まえた話し合いを通して、双方が納得しやすい形で行われる仕組みです。業務以外では有給休暇の取得率向上、年3回の食事会での友好関係増進など、働きやすい職場作りに取り組んでいます。また、職種ごとに専門リーダーを配置して、業務を主体的に運営する事で、チームワークの強化も図っています。

カテゴリー5の講評補足

公表コメント

非公表コメント

7		カテゴリー7
事業所の重要課題に対する組織的な活動		
サブカテゴリー1(7-1)		
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている		
評価項目1		
事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)		
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)		
<p>子どもの主体的な保育の推進を目指しました。月1回の専門リーダー会議で、子どもたちが主体的に活動できるようにするためにどうするかを検討し、取り組み内容を決めました。まず保育士が教えて、子どもがそれに従って行動するという従前パターンを見直しました。例えば、1週間の活動内容については、子どもが決めるという方針をとりました。何をしたいか子どもに聞き、保育士は「それなら園庭でやるといいね」など、アドバイス役に徹しながら週案を立てました。製作では、今までは同じ色の台紙を渡していましたが、子どもたちが自分で好きな色を選ぶようにしました。このようにして、子どもの反応を確かめながら取り組みを進めていきました。その結果、例えば段ボール箱を使ったタワー作りでは、今までになかった創意工夫が見られました。このような経験を重ねるうちに、子どもは毎日の登園が楽しみになり、情緒もより安定してきました。運動会は職員が指導する演目を廃止して、子どもたちが考えた競技に変更しました。今年度、秋の遠足は、消防車が見たいので消防署の近くの公園に行くなど、子どもの意見を取り入れて、クラスごとに行先も自由に決めるなど、取り組みを深めています。</p>		
目標の設定と取り組み	具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った	
取り組みの検証	目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った	
検証結果の反映	次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた	
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評		
<p>子ども主体の保育については、保育所保育指針で重視されています。当園でも「自主的個別保育」の中で実践していましたが、研修で他園の事例に関心が集まり、当園の職員から「取り組んでみたい」旨の声もあり、本取り組みに至りました。子どもの意思を尊重する際に、単なる放任とならないよう、安全などさまざまな観点から配慮して、子ども同士の話し合いを援助しました。製作においても、全く同じ材料を使ってまとまりある作品群を作るよりも、子どもが自分の感性に従って表現しようという気持ちを大切にしました。この積み重ねで子どもは、取り組む事の意味、取り組むために何が必要か、もっと丈夫に作るにはどうしたらいいかなど、自分で考えて動ける力を育む事ができました。取り組みを通して、子どもたちの変化を振り返る事で、職員も子どもの意欲や個性を引き出すための、多くの学びを得る事ができました。今年度の目標のSDGsへの取り組みにおいても、子どもたちの主体性を生かした形で、意義ある成果が得られる事を期待します。</p>		
非公表コメント	カテゴリー7評価項目1の講評補足	

<p>評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p>	
<p>保育困難な子どもへの支援について、実践を深めていく事に取り組みました。園では例年、障がいのある子どもとして認定を受けている子ども、または配慮が必要と思われる子どもを一定数見込んでいます。本取り組みで改めて子ども一人ひとりに存在する困難の状況に向き合い、より良い対応の実践につなげていく事としました。その体制として、「障害児保育リーダー」を立てて、専任となって取り組みにあたりました。例えば、ある子どもには、姿勢を改善すると良いという事から、体操を導入したり器具を活用したりして体幹を鍛える事から取り組みました。また別の子どもに対しては、リュックサックを背負うと落ち着く場合があるといった専門家の話を実践する事なども行いました。これらの実践に際しては、「障害児保育リーダー」が学びながら、子ども個々にどんな支援を行うかなどについての支援表を作成しました。困難の特性ごとに適切な支援グッズやその使用法をまとめた資料も作りしました。結果として、「障害児保育リーダー」の負担が想定より大きかった事もあり、顕著な成果はまだ見られていません。今後は職員間の協力体制を組んで取り組みを継続していく方針です。</p>	
<p>目標の設定と取り組み</p>	<p>具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</p>
<p>取り組みの検証</p>	<p>目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</p>
<p>検証結果の反映</p>	<p>次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</p>
<p>評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p>	
<p>取り組みのきっかけは、これまでの接し方が通用しない子どもが入園するようになってきた事でした。園として困難のある多様な子どもに対して、理解と対応の質を向上させていく必要を強く感じ、取り組みテーマとしました。取り組み体制として、リーダー職員を1名選任として、集中して事にあたってもらいました。最終的に2月の全職員による総括会議で振り返りを行いました。結果として、達成感の得られる成果には至りませんでした。専任のリーダー職員一人に頼ってしまった事と、コロナ禍での職員欠員により補助業務負担が、リーダー職員にも生じた事などが原因として挙がっています。今後、園は1名のエキスパートにフリーの形で任せるのではなく、シフトやローテーションなどを工夫しながら複数の職員の協力体制を組んで継続していく事としています。困難のある子ども、配慮の必要な子どもについては、園では年齢によって増減はあるものの、ここ10年くらいは増加傾向にあります。こうした子どもたちへの支援ニーズは世の中的にも高くなっています。本取り組みによるさまざまな実践結果や作成した資料なども貴重な成果と捉え、結果を焦らずに着実に取り組みを深めていく事を期待します。</p>	
<p>非公表コメント</p>	<p>カテゴリー7評価項目2の講評補足</p>

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリ-1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ-1毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している 評点(〇〇〇〇)		
	評価	標準項目
	あり	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	あり	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	あり	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	あり	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
サブカテゴリ-1の講評		
公表コメント	パンフレットや子育て支援のチラシを市役所などに配置し、園情報を広く伝えています 市役所に園のパンフレットを置かせてもらい、子ども支援センターなどには地域向けのチラシを提供しています。パンフレットでは「子どもの命を守り、心を育てる保育」を基本に、保護者と一緒に保育にあたり、良い環境の提供で子どもの成長を促し、地域の子育てセンターとして信頼される保育園を目指す理念を伝えています。子どもの季節行事や保育の特徴、手作り給食、子育て支援、父親有志による「オヤジの会」などについて見やすく記載しています。利用料金などさらに詳しい情報は、パンフレットのQRコードからホームページで閲覧できます。	
	ホームページを中心に、園の情報をていねいに伝えています ホームページでは園の様子をできるだけ視覚に訴えるよう写真を活用し、子どもの活動や給食などについてわかりやすく伝えています。園の特色として保育理念や保育方針、ビジョン、縦割り教育、モンテッソーリ教育なども、ていねいに記載しています。利用希望者が必要とする日常の保育の様子や給食、保健、料金、利用時間などについても具体的に示しています。入園までの流れも見やすく示し、Q&Aでも入園希望者が知りたい事をピックアップして伝えています。ホームページは4年ごとに見直しています。また、ブログや必要事項は適宜更新しています。	
	見学者が園の特徴を理解しやすいように、説明など工夫しています 見学者はホームページのメールか電話で申し込み、園は希望に沿って個別対応しています。電話での申し込みが多く、昨年度は20家庭以上の見学希望がありました。園の根幹となるモンテッソーリ教育の活動を見学できるように、午前中の時間帯を勤め、子どもの年齢に合わせた活動について詳しく説明しています。縦割り保育で0～2歳児は個々の成長に合わせたきめ細かな保育の継続性を、3～5歳児では異年齢クラス構成の活動をベースに、必要に応じた同年齢での活動や専門講師指導などについてもていねいに伝えています。	
非公表コメント	サブカテゴリ-1の講評補足	

サブカテゴリ-2	
2	サービスの開始・終了時の対応
サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6	
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している
あり	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている
あり	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
あり	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している
あり	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている
サブカテゴリ-2の講評	
園のしおりを説明し、保護者の理解と同意を得るようにしています 入園前の2、3月に2回入園説明会を行い、新入園児面接、健康診断も同日に行っています。園のしおりが重要事項説明書となっており、園でのルールやお願い事を含め、必要な事を入面接で説明し、利用に際しては良く理解してもらい同意のうえで入園となるように伝えていきます。また個人情報の扱いについての説明と同意書は別に作成し、保護者の同意を得ています。写真は画像処理により拡大して見られない、印刷できないように処理するなどの配慮をしています。しおりは卒園時まで保管してもらい、改訂内容は追加配付としています。	
公表コメント	利用開始にあたり、ていねいな聞き取りなどで子どもの状況を把握しています 利用開始にあたり、児童票、けんこうカード、緊急連絡簿、勤務調査書、入園前の家庭での状況を記入する「保育に必要な事項」の提出により子どもの情報を把握しています。併せて新入園児面談チェック表によりさらに具体的な保育情報を把握しています。入園説明会では看護師、栄養士も詳細を説明していますが、必要に応じて面談時に聞き取りもしています。サービス開始までに担当職員と得られた情報を共有しています。途中退園や卒園の際にはお別れ会や行事へ誘いかけ、継続した支援や面談などで保護者や子どもの不安軽減に努めています。
	保護者との連携も行いながら、慣れ保育でスムーズな利用開始を図っています 利用開始時には慣れ保育を実施しています。1週間程度を目安に少しずつ時間を増やしており、各場面の中で子どもをさらによく知るよう心がけています。慣れ保育は0～2歳児は1日の前半と後半に分けて行っており、少人数の新入園児とリラックスして過ごせるようにしています。2日ほど保護者も一緒に過ごし、保育士が保護者の接し方を知る事で子どものストレス軽減を図れるようにしています。また食事の仕方を共有するなど、保護者との連携も重視しています。子どもや家庭の様子によって柔軟に対応し、期間設定も相談しながら実施しています。
非公表コメント	サブカテゴリ-2の講評補足

評価項目1

定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
あり	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
あり	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている

評価項目2

全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している
あり	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、保育の過程を踏まえて作成、見直しをしている
あり	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている
あり	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している
あり	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている

評価項目3

子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

評点(〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある
あり	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している

評価項目4

子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している
あり	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報について、職員間で申し送り・引継ぎ等を行っている
あり	3. 子ども一人ひとりに対する理解を深めるため、事例を持ち寄る等話し合う機会を設けている

	サブカテゴリー3の講評
公表コメント	<p>ICTによる発達チェックを活用し、一人ひとりの特性を把握し保育に反映しています</p> <p>ICTを導入し、発達チェックを基本に一人ひとりの成長を確認しています。年齢に合わせた期間設定で入力し、その経過を確認しています。生活、運動、人間関係、認知、言葉、表現の6項目についてプロフィールチャートで表示し、一人ひとりの特性を把握しやすくしています。就学時にはこの発達経過や保育日誌などに記載された状況を、保育要録に反映しています。担任を中心に職員の間での観察や保護者からの情報を、クラス会議や職員会議で話し合っています。保護者からの連絡事項や個人面談時の聞き取り内容も、職員間で共有しています。</p>
	<p>指導計画の作成では子どもの意向を反映し、自主性を育む工夫をしています</p> <p>指導計画はモンテッソーリ教育法を取り入れ、養護と教育の各領域を考慮して全体的な計画を作成しています。前年の子どもの様子を踏まえて、安全確保や災害対応に配慮しています。全体的な計画から縦割り保育を導入しており、0歳児、1、2歳児合同、3歳児、4歳児、3～5歳児の幼児合同クラスの各年間指導計画と月間指導計画を基に、週案を作成しています。週案では定例的活動のほか、指導計画との齟齬がない範囲で子どもの意向を反映し、子どもの主体性を育てています。保育の月々のねらいを園だよりに載せ、保護者との共有も図っています。</p>
	<p>個別的計画の作成や情報共有で、個に対応した保育を深めています</p> <p>週案、日誌では子どもの様子や変化について記載し、次週に反映しています。日々担当で情報交換し、クラス会議、乳児会議、幼児会議、職員会議で情報を共有しています。個別的な計画は0～2歳児と配慮の必要がある子どもについて作成し、年4回及び必要時に見直しを行っています。より観察の必要がある子どもについて支援会議を行い、関係機関との連携による情報も職員間で共有し、定期的会議のほか、必要時には朝礼などでも伝えていきます。効果のあった保育の事例検討などを持ち寄り、話し合う機会をさらに増やすと良いでしょう。</p>
非公表コメント	サブカテゴリー3の講評補足

サブカテゴリー5	
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重 サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている
あり	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している
あり	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている
あり	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている
サブカテゴリー5の講評	
外部との連携で子どもの情報を伝える必要がある場合は、保護者を通して行います ホームページや配布物へ写真掲載などについては、入園時に「個人情報に関する承諾書」にて保護者から同意を受けています。また、子どもの情報については園のしおりでも「安全な園をめざして」の1つとして取り扱いに留意しており、ホームページで園の様子紹介に写真を掲載する際も画像処理を行い印刷などできないようにし、鮮明な動画を掲載する際はパスワードをかけるなどの配慮をしています。医療や行政、関係機関との連携などで子どもの情報の共有が必要な場合は、保護者を通して行う事を基本としています。	
公表コメント	子どもの羞恥心など、デリケートな心に配慮した対応や環境作りを工夫しています プールの時の着脱では近くのピロティに目かくしを設置したり、0~2歳児の頃から上下の衣類を順に替えながら全部脱いでしまわないよう指導したりしています。排泄では、トイレ内に設置された場所でのおむつ交換をしています。3歳児からは個室使用などの環境を配慮し、失敗した際には着替えに行こうとトイレでしよう促し、否定的な言葉にならないようアドバイスしています。危険な行為が見られたときは素早く止めますが、止めた後、場所を変えてその子どもだけに聞こえる程度の声で注意するなど、子どもの心に配慮しています。
	子どもの人権や個性を尊重した保育、および虐待防止に配慮しています 園のしおりに「子どもの命を守り、心を育てる」と明記し、園の特徴として「個性の尊重」を挙げています。「自主的個別保育」により個性を尊重し、子どもの人権について年度末の総括の会議時に全職員で確認しています。虐待については虐待マニュアルに沿ってチェックリストで確認し、外遊び後の着替え時に子どもを観察するなど、家庭内での様子に変わった事がないかにも留意しています。日常の子どもの言動などにも注意を払い、支援会議で必要な対応を検討しています。虐待につながる家庭環境の学びにも広げて話し合っています。
非公表コメント	サブカテゴリー5の講評補足

サブカテゴリ-6	
6	事業所業務の標準化
サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている
あり	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている
あり	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている
あり	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている
サブカテゴリ-6の講評	
マニュアルは、さまざまな想定場面、実践での活用を重視して整備しています 園舎マニュアル、保健関連マニュアル、危機管理マニュアル等を作成し、各マニュアルの中に実践の手順を示しています。保育については園舎マニュアルが中心で、散歩や延長保育、園庭遊び、登園時や保育中の人数確認、配膳ほか、具体的に示されています。災害時の給食提供や給食職員が出勤できない時、炊き出し、あるいは感染症や食中毒、食物アレルギー緊急対応など、さまざまな想定で準備しています。各マニュアルは一覧表により、保管場所を全職員が把握しています。職員は自分が必要と思う部分をコピーして保育室に掲示もしています。	
公表コメント	担当者を決め、必要な見直しに適宜対応しています マニュアルごとに担当者を決め、担当者が修正の提案を行います。修正は園長から職員に周知したり、職員会議で協議して修正したりする場合もあります。マニュアルは必要に応じて見直していますが、年度末の事業計画会議、総括会議の中でも各担当を中心に検証し見直しを行っています。行事後の保護者アンケートによる意見も反映させています。必要が生じた際にはマニュアルを追加し、マニュアル一覧表に加えています。マニュアルはデータ化されたうえでプリントするので修正には柔軟に対応でき、データ保存場所も一覧表に記載されています。
	マニュアルは職員全体で協議して作成し、わかりやすくなるように工夫しています マニュアルは誰でも実践できるよう、写真やフローチャートで示しています。例えば炊き出しでは火起こしも写真で使用する物や手順を示し、各職員が実際に行えるよう工夫しています。行事や保育の方向性などについては経営層と職員が協議しながら決定していますが、主体的保育への取り組みなどの進展で、保育活動の内容とともに、マニュアルの改変が必要になってきています。そのために事業計画会議、総括会議では職員全員によるグループワークで、付箋を使ったブレインストーミングを行うなど、多様な意見を引き出す工夫をしています。
サブカテゴリ-6の講評補足	
非公表コメント	

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 36 / 36	
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇〇)	
	評価	標準項目	
	あり	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	
	あり	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	
	あり	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	
	あり	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	
	あり	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	
	あり	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	
評価項目1の講評			
<p>乳児クラス、幼児クラスで縦割り保育を基本とし、職員全体で保育にあたっています</p> <p>ICTを活用した発達チェックをベースに、子ども一人ひとりの状態と家庭などの状況や課題を職員会議で報告し共有しています。1、2歳児と3～5歳児で縦割り保育を行っています。0歳児クラス、1、2歳児混合の3つの乳児クラス、3～5歳児混合の3つの幼児クラスで、基本は卒園まで同じクラスです。異年齢で憧れや思いやり、いたわりなどの心を豊かに育んでいます。配慮が必要な子どもも統合保育の中で共に成長し合える体制にしています。異年齢だけでなく年齢別の活動もある事から、全ての職員が全体の子どもの理解して保育にあたっています。</p>			
公表コメント	<p>子ども同士での話し合いなど、主体的に活動に取り組む環境を作っています</p> <p>8時30分からモンテッソーリ教育での活動「おしごと」に取り組み、その後クラス単位で活動を行います。モンテッソーリ教育では一人ひとりが自分の考えや興味で「おしごと」を選びます。職員は子どもの関心が今、何にあるかを観察し、子どもが主体的に取り組み集中できる環境を整えています。クラス活動では指導計画をベースに週案を子どもと話し合い、子ども同士の意見が分かれた時にも自分たちで決められるようアドバイスしながら話し合いを見守っています。また活動をさらに発展できるように、ヒントなども与えています。</p>		
	<p>保育上の配慮については、年齢や個々の状況に応じて保護者と連携し対応しています</p> <p>年度初めの保護者会で年齢による発達の過程を伝え、かみつきなど資料を配付し、園の対応についても説明しています。頻度が高い子どもについては状況や原因を分析し、子どもの気持ちを受け入れて関わり、再発防止に努めています。またその保護者とは園と家庭で共通の取り組みを行えるよう話し合っています。5歳児は日常のモンテッソーリ教具での数や字への親しみに加え、就学に向けて参考になる絵本を読み、製作を行い、時間割を意識した時間の過ごし方などに取り組みます。また小学生との交流会や保護者の就学児面談なども実施しています。</p>		
非公表コメント	評価項目1の講評補足		

2 評価項目2		評点(〇〇〇〇)
子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		
評価	標準項目	
あり	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	
あり	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	
あり	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	
あり	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	
評価項目2の講評		
登降園時のコミュニケーションを大切にして、子どもの状況を保護者と共有しています 登園時には保護者から口頭で子どもの状況を聞き取っており、登降園チェック装置の脇に伝言メモ用紙も設置しています。0～2歳児は連絡帳でも伝えられるようにしています。アプリの導入で、連絡帳機能での伝達も可能になっています。降園時にはその日の子どもの活動を幼児クラスは写真やコメントによる掲示で伝え、一人ひとりの様子も口頭で保護者に伝えるよう努めています。0～2歳児は連絡帳だけでなく口頭でも伝えています。延長保育などで担任が会えない場合もありますが、担当職員からも伝えられるようにして家庭との連携を図っています。		
公表コメント	生活習慣は一人ひとりのペースで身に付けられるように環境を整えています 一人ひとりの生活のリズムで、焦らずじっくりと生活習慣が身に付くようにしています。モンテッソーリ教具や絵本などへの関心を基に、子どものペースで取り組めるよう環境を整えています。年上の子どもを見習う事もあります。個々の発達に家庭での状況を加味して、子どもが安心して取り組めるように保護者とのコミュニケーションも大切にしています。食事方法やマナー、排泄のトレーニング、歯磨き指導など指導計画と日々の積み重ねをていねいに行っています。和式トイレを設置し、外出先や就学後に向けての体験も行っています。	
	生活リズムに配慮し、子どもの成長やその時の状況に合わせた休息を取っています 午睡などの休息は、時間や長さなど、子どもの年齢や個人差により調整しています。途中で起きてしまったり、眠れなかつたりする子どもは、日中に活動していた部屋や絵本コーナーなどで、ゆったり過ごせるようにしています。家庭環境の事情などで休息が不足しているような場合には、コーナーにパーティションを設置するなどして、落ち着ける場所を確保して対応しています。5歳児は11月から午睡時間を徐々に減らしていき、その分を発表会の練習や自由に活動できる時間にして、1月からは就学に向けた活動にあてています。	
非公表コメント	評価項目2の講評補足	

	3 評価項目3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している	評点(000000)
	評価	標準項目	
	あり	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	
	あり	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	
	あり	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉(発声や喃語を含む)や表情、身振り等による応答的なやり取りを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	
	あり	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	
	あり	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	
		6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	
	評価項目3の講評		
公表コメント	<p>子どもが自主的に遊びを選び、主体的に集中できる環境を用意しています</p> <p>朝のモンテッソーリ活動では個別に「おしごと」に取り組み、全体活動とのメリハリを付けています。子どもに合わせた教具や玩具を豊富に用意し、子どもが自主的に選んで集中して行えるようコーナー設定しています。机やマットを敷き、自分のスペースを確保して落ち着けるようにしています。3～5歳児の幼児クラスはダンボールやパーティションでひとりの空間を工夫できるようにしています。園庭には自分たちで遊びを工夫できるように遊具を配置しています。園庭ではクラスごとに活動の場所を調整し、乳児と幼児の分けをして安全に配慮しています。</p>		
	<p>異年齢で、年齢別で、さまざまな集団活動が自主的に行えるように配慮しています</p> <p>活動内容に応じて、異年齢活動と年齢別活動とで集団を変えて取り組んでいます。外部講師の体操指導や英語活動、クラスによりリズムやダンス、楽器練習なども取り入れています。集団に入るのが苦手でも、見て楽しさを感じられるように、また友達に誘ってもらえる環境作りなど、無理強いをせず対応しています。戸外活動は行きたい場所を子どもが決め、目的を持って活動するよう取り組んでいます。子どもの意見を取り入れ、公園や川沿いの散歩など自然に触れ、草花や昆虫を図鑑で調べたり、生花店に行って話を聞いたりしています。</p>		
	<p>活動の中で集団のルールを少しずつ体験し、自分の気持ちの調整を学んでいます</p> <p>活動の前にはその場でのルールを伝え、子どもが危険を回避できるよう安全教育に力を入れています。特に散歩や公園でのルール、遊具一つひとつについて確認を行い、順番を待つ、並ぶなど社会ルールも少しずつ体験していきます。異年齢での生活や遊びの中で決まりを教え合ったり、事故にならないよう年下の子どもを思いやったりしています。子ども自身が考えを深めながら行動し、気持ちを少しずつ調整できるようになっています。パニックになってしまった場合には、職員が一緒にその場を離れ、気持ちを調整できるよう寄り添っています。</p>		
非公表コメント	評価項目3の講評補足		

4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	
	あり	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	
	あり	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	
評価項目4の講評			
公表 コメント	日常の活動の延長で、「行事による心の育ち」をねらいにしています 行事においては心の育ちをねらいとし、結果だけでなく過程を大切にしています。意欲的に取り組む、最後まで諦めない、同年齢で共感する、集団で決まりを守る、協力して考えるなどから、やればできるという自信につなげています。生活の延長上に行事を設定し、日々の活動の中から演目を設定しています。子どもの自主性を尊重し、子どもが披露したい事を重視しています。運動会の演目では5歳児が日常保育の積木遊びからダンボールを積木に見立てて積み上げる箱タワー競争をしました。体操指導の内容も子どもの意見で演目に取り入れています。		
	子どもが話し合い、主張したり思いやったりしながら、行事を楽しんでいます 遠足では行き先を子どもが考え、どの公園に行き向をするかを決めます。野球をする、どんぐりを拾う、遠くまで歩くなど、クラスにより異なるところへ行きました。クラス内でいくつか候補が出た場合には話し合いで決めていきます。少数だった意見をどう取り入れるか話し合う事もあります。「あゆみまつり」の行事では3～5歳児がクラスごとに山車を引き、地域を練り歩き、保護者が付き添い、はっぴを着るなど、祭りらしい雰囲気も楽しみ、バザーや盆踊り、スーパーボールすくいもしました。終了後に父親主催の「オヤジの会」も開催されました。		
	生活発表会では、練習の過程や成果を保護者とともに楽しんでいます 生活発表会では0歳児から舞台上がり、手を上げて返事や手遊びをしました。1、2歳児は劇と歌を、3～5歳児は異年齢クラスごとに劇を披露しました。また年齢別クラスで3歳児は歌を、4歳児は楽器演奏と手話を披露しました。5歳児は楽器演奏と歌を披露し、歌は、保育士が歌にちなんだ話を子どもから聞いて替え歌にし、それを子どもが歌いました。クラスだよりで練習の様子や、発表会後も遊びの中で劇を繰り返し楽しんでいる様子などを保護者に伝えています。当日は発表する子どもの保護者が優先的に鑑賞できるよう工夫しました。		
非公表 コメント	評価項目4の講評補足		

5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	
	あり	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	
評価項目5の講評			
公表 コメント	長時間保育で、朝夕においては家庭的なくつろげる環境を用意しています 全体的な計画に「共働き家庭の増加により長時間保育園で過ごす子どもが増加している事から、合同保育の時間を中心に、家庭的な雰囲気環境づくりを整える」として取り組んでいます。7時から8時30分までと16時以降は「なかよし保育」で、乳児用と幼児用の2部屋を使用し合同保育を行っています。一人ひとりに応じた玩具を用意し、疲れや生活リズムの崩れ、子どもの表情などに注意を払っています。また部屋の中を区切り、落ち着いた空間で静かに過ごし、1日の活動に備えたり、落ち着いて降園できたりするよう配慮しています。		
	延長保育の落ち着いた環境作りをし、子どもが楽しめるように工夫しています 18時から延長保育で、ホール内に可動式の仕切りをして、走り回らず落ち着いて過ごせるようにしています。人数変化に合わせて仕切りを移動させながら、くつろげるような環境を作っています。ホールの担当者を配置し、折り紙やぬりえ、ブロック、玩具や備品などを充実させ、子どもが楽しめるように工夫しています。18時過ぎに補食(おにぎりやバナナなど)を提供し、お迎えで遊びが中断しないように予定時間の少し前に声かけをしたり、作成途中であれば続けられるように保管したりして、スムーズな降園に配慮しています。		
非公表 コメント	評価項目5の講評補足		

6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(00000)
	評価	標準項目	
	あり	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	
	あり	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	
	あり	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	
	あり	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	
	評価項目6の講評		
	食事を楽しく安全に摂れるように工夫しています 食事は各クラスで摂っています。テーブルの配置は各クラスで工夫し、異年齢で楽しめるようにしています。テーブルに合わせて小さい子どもには補助の足のせを作成しセットしています。配膳は当番の子どもがモンテッソーリ教育の実践としてエプロン、マスク、帽子を着用して行っています。またメニュー発表を行い、聞こえとする雰囲気などもあり、落ち着いて食事を摂っています。アレルギーの子どもは1クラスに配置しテーブルを分け、調理担当も確認に来て事故防止を図っています。トレーの色分けや除去、代替えを行っています。		
公表コメント	季節感や日本の行事を大切に、食材への関心が得られるよう豊かな食を提供しています 旬の食材を使い、素材の味を感じられるよう4種類のだしをかかせた薄味で、季節感を大事にしています。和食中心で乾物や香りのある物も提供し、色彩や五感の発達を促しています。行事食や郷土料理を取り入れ、日本古来の文化を伝えています。食育のクッキングでは子どもも内容を考え、協力してでき上がる過程を知り、パイキングでは自分の食べられる量やルール、ドレッシングの選択を体験しながら食への関心を深めています。鮭の解体を見学し、身体の仕組みや命をいただく大切さを知り、5歳児には魚の上手な食べ方も伝えています。		
	食育をていねいに行い、食事の大切さや楽しさを伝えています 月2回栄養指導を行い、身体と栄養や食材、食事の姿勢やマナー、歯の健康と食事などを学び、毎日の食事で食習慣の基礎の体得に取り組んでいます。クッキングではかまどで火をおこす様子を見たり、非常食を食べて災害時の疑似体験もしたりしています。ごぼうはアルミホイールを丸めて皮むき、蒸したさつまいもを潰すなど旬の食材に触れています。畑では夏野菜を育て、生長記録を掲示しています。地域の畑でさつま芋掘り体験もしています。SDGsで食品ロス削減を目指し、絵本を見たり、自分が食べられる量を残さず食べる取り組みをしたりしています。		
非公表コメント	評価項目6の講評補足		

7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(000)
	評価	標準項目	
	あり	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	
	あり	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	
		あり	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている
	評価項目7の講評		
	子どもが進んで心身の健康を維持できるように援助しています 子どもがけがをしないうちにはどうしたら良いかなどに気づく、また予防するための体力づくりを行っています。安全教育週間を設け、紙芝居や絵本を利用して各クラスで安全指導を行っています。毎月避難訓練を行っていますが、その週を利用して災害時の身の守り方や季節に沿って健康を守るための過ごし方を伝えています。また日常での手洗いや排泄などの保健指導を行い、子どもが日々の中で繰り返して体得できるようにしています。身体測定、健康診断、保健指導などで子どもが身体の仕組みを知り、自主的に健康への関心が持てるように努めています。		
公表コメント	医療機関や専門機関と連携して、子どもの健康維持や保育にあたっています 現時点では医療的なケアが必要な子どもはいませんが、食物アレルギーや障がいに関して医療機関と連携しています。子どもの様子は保護者を通して伝え、医療機関からの指導は保護者と共有しています。保育計画作成にあたって、医療機関から来園してもらい、直接指導を受けるなどの連携も図っています。また市の保育所巡回指導により保育へのアドバイスを受け、子どもの心身の安定につながるよう取り組んでいます。感染症については入園時に基本情報を保護者に伝え、必要な休養や感染蔓延防止についても、その都度掲示などで保護者と共有しています。		
	保護者と連携して子どもの健康を考え、維持や成長に取り組んでいます 入園時に子ども一人ひとりの健康について把握し、常に情報を更新しています。乳幼児突然死症候群について入園時にも説明し、午睡時には0～2歳児は個別睡眠チェック表に、0歳児は5分おき、1、2歳児は10分おきに、3～5歳児は睡眠表に30分おきに子どもの状態を記録しています。政府の啓発ポスターも掲示しています。保健だよりを毎月発行し、感染症などの園や近隣の状況、健康診断、予防接種、季節の健康上の注意点などを伝えています。幼児クラスの就学も視野に入れた排泄の自立では年齢別の目安を示し、家庭での取り組みも促しています。		
非公表コメント	評価項目7の講評補足		

8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	
	あり	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	
	あり	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	
	あり	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	
	あり	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	
評価項目8の講評			
公表 コメント	保護者の個々の状況を受け止め、共感しながらコミュニケーションを取っています		
	就労状況等による急な延長保育も対応しています。面談や連絡帳から、また降園時に気になる事や希望を聞き、保護者の思いに共感受け止めています。子どもについて気づいた点がある時は、保護者と積極的にコミュニケーションを取っています。3～5歳児の幼児クラスでは新しい取り組みとして、ドキュメンテーションの掲示で園での活動を伝えています。個別の伝達にはアプリのメッセージや伝言メモもありますが、降園時になかなかコミュニケーションが取れない保護者もいるので、子どもの成長などを定期的の手短かに報告するような工夫も期待します。		
	保護者同士及び職員が一体となり、子育てに取り組めるような環境作りに努めています		
	保護者には、ホームページのブログやお泊まり保育のDVDなどでも保育の様子を伝えています。保護者会では園からの説明などの後、クラスごとに懇談会や保護者同士が自由に話せる時間を設定しています。春の遠足では保護者も参加し、保護者と職員、保護者間の交流の場にもなっています。また、園には園独自の「オヤジの会」があり、自由参加で、父親が行事の企画に参加したり、企画を行ったりして交流を図っています。行事においてはミニ運動会や「あゆみまつり」での縁日、風あげ大会などで活躍し、父親間の交流も図っています。		
非公表 コメント	保育に役立つ情報を提供し、子育てを共に行う姿勢で支援しています		
	園日より、給食日より、保健日よりで子育ての情報を提供しています。病児保育室を設けたクリニックや夜間、休日の体調不良時の相談先を紹介しています。誕生会には3～5歳児の幼児クラスの保護者も参加してもらい、給食を提供して給食の工夫を知ってもらう機会にしています。10日ほどの期間を設けて保育参観と個人面談を行い、園の様子など子どもの情報を共有しています。0～2歳児は保育参加を行っています。5歳児は12月に就学前面談を行い、就学に向けた準備についても情報を提供しています。地域のイベントもアプリで配信しています。		
評価項目8の講評補足			

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	
	あり	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	
評価項目9の講評			
公表 コメント	地域の公園や施設において、さまざまな人との交流があります		
	戸外活動では、地域の多くの公園に散歩や遠足に出かけています。農園での芋掘り体験では、散歩の途中で蔓が伸びた様子の観察も行っています。生花店で花の事を教わるほか、地域の小学校の食イベントへの参加や、プラネタリウム見学なども行っています。高齢者施設との交流もあり、プレゼントをもらい、歌とリースをお礼に贈ったり、訪問後にお礼の手紙を書いたりするなど、身近な環境で子どもたちの多様な体験につなげています。散歩の経路では地域の方と挨拶したり、公園では他園の子どもと譲り合いなど経験したりしています。		
	園以外の人たちやいつもと違う自然などと触れ合い、体験の幅を広げています		
園では劇団による人形劇鑑賞を行い、地域の子どもも一緒に鑑賞しています。交通安全指導では警察署の協力で園庭で横断歩道を渡る練習や紙芝居、地域の危険な場所も教えてもらい、不審者侵入時の訓練も見学しました。消防署からも避難訓練があり、消防車を間近に見る事ができました。「あゆみまつり」に近隣の人や卒園児が来てくれます。小学校教員の体験や養成校の実習生、夏休みの中学生ボランティアなど多くの人たちとの交流も行っています。5歳児のお泊まり保育は他県の施設で、いつもと違う自然や昆虫館で多くの体験をしました。			
評価項目9の講評補足			
非公表 コメント			

調査対象

保育園を利用している92世帯を対象に調査を実施しました。在園児は121名で、兄弟姉妹が同園に通う世帯は年齢の一番低い子どもについて回答してもらいました。

調査方法

アンケート調査は、Webアンケートシステムを使用し、無記名方式で行いました。案内は施設を通じて利用者へ配付し、集計は評価機関が行いました。調査結果は選択回答だけでなく、記述式の回答についても匿名性に配慮してまとめ、施設に報告しました。

利用者総数	121
利用者家族総数(世帯)	92
共通評価項目による調査対象者数	92
共通評価項目による調査の有効回答者数	34
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	37.0%

利用者調査全体のコメント

保育園に対する総合的な感想は、「大変満足」が15人(44.1%)、「満足」が15人(44.1%)で「満足」以上の回答は合計30人(88.2%)でした。

自由意見には、「子どもたちの自主性を大切に、先生方が試行錯誤しながらも、常によりよく改善しようとしている姿勢が感じられ、ありがたく、安心して通わせられます」「どの先生もとても優しく、一人ひとりをていねいに見てくださっているのを感じています」「積極的に学習や身体作りに取り組んでいただき、本当に感謝です」「保護者への配慮も感じられ、大変感謝しております」「アットホームです」「施設・設備が、適切に管理されています」など園への信頼と感謝を寄せる声が多く見られました。

項目別に見ますと、「保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか」で100.0%、「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか」で97.1%、「提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか」「保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか」他1項目で94.1%の保護者がそれぞれ「はい」と回答し、とても満足度が高い様子が読み取れます。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	33	0	1	0
「はい」が97.1%、「いいえ」が2.9%でした。 自由意見には、「できるようになることが日々増えていくのは、日々の園での活動があったからこそだと思います」「普段から、周辺の公園まで散歩に行き遊ぶ活動も多く、食育も積極的に保育に取り入れられていると思います」「園での経験、教育があつての今日の子どもの姿だと思っています」「お行儀が良くなっているので、とてもありがたいです」「それぞれの個性を把握し、伸ばしていただいている点がとても嬉しいです」などの声がありました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	34	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「成長にあつた活動の提供、また、子どものやってみたい気持ちや興味、関心に、とても寄り添っていただいていると思います」「家でできないいろいろな遊びを、園で挑戦できていると思います」「子どもの興味や関心を刺激するような体験を、提供していただいています」「行事も多く、子どもはいつも楽しみにしています」「子どものやりたい気持ちを受け止めてくれる保育をしてくれていて、ありがたいです」などの声がありました。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	32	1	1	0
「はい」が94.1%、「どちらともいえない」が2.9%、「いいえ」が2.9%でした。 自由意見には、「家では食べない野菜も、給食では食べているようなので、おいしいのだと思います。栄養も考えられていて、おいしく、給食の先生方に感謝しております」「当日食べたもののサンプルが置いてあるので、参考にさせていただいています」「ごぼうの皮剥き、玉ねぎの皮剥きなど、食育にも積極的に嬉しいです」「家ではあまり食べない子どもですが、『全部食べた！おいしかった！』と聞くと、とても嬉しいです」などの声がありました。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	32	2	0	0
「はい」が94.1%、「どちらともいえない」が5.9%でした。 自由意見には、「お散歩で遠くの公園にも連れて行っていただき、ありがとうございます」「園外の活動について、連絡帳に記載をされていることから、体験の機会を提供していただいていると認識しております」などの声がありました。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	30	3	0	1
「はい」が88.2%、「どちらともいえない」が8.8%、「無回答・非該当」が2.9%でした。 自由意見には、「何度かお迎えが遅くなりましたが、対応をしてくださいました」「延長保育を利用しましたが、補食を提供していただくなど、手厚く対応をしていただいております」などの声がありました。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	23	9	1	1
「はい」が67.6%、「どちらともいえない」が26.5%、「いいえ」が2.9%、「無回答・非該当」が2.9%でした。 自由意見には、「複数の想定で避難訓練が実施されており、日頃から安全対策が意識されていると感じます。感染症については、感染症の状況を掲示するなど、十分に情報を発信されていると感じます」「アプリでの連絡や、園での掲示、訓練なども積極的に行われていると思います」などの声がありました。 その一方で、「縦保育と横保育が混在しているので、コロナ禍などはどちらかが良い」という意見もありました。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	26	7	0	1
「はい」が76.5%、「どちらともいえない」が20.6%、「無回答・非該当」が2.9%でした。 自由意見には、「行事が土日に限った設定ではないことから、保護者の働き方に配慮をされていると感じます」「コロナ禍などでも工夫をして行事を行っていただき、本当に感謝しています」などの声がありました。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	22	9	3	0
「はい」が64.7%、「どちらともいえない」が26.5%、「いいえ」が8.8%でした。 自由意見には、「お会した時には子どもが一日過ごした様子や、日頃頑張っていることやできるようになった姿を共有していただいています。保育園での姿を直接、担任の先生から伺うことができるのは、とても嬉しいです」「先生方には、いろいろと相談に乗っていただいています」「安心して預けることができます」などの声がありました。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	32	1	1	0
「はい」が94.1%、「どちらともいえない」が2.9%、「いいえ」が2.9%でした。 自由意見には、「きれいな環境だと思います」「経営層が毎日、清掃、点検をされております。園内の状況を見ると、職員の方々のご努力を感じます」などの声がありました。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	23	7	4	0
「はい」が67.6%、「どちらともいえない」が20.6%、「いいえ」が11.8%でした。 自由意見には、「常にこやかに対応していただいております、安心できる環境であると感じます」「素敵な先生たちです」「どの先生方も、子ども一人ひとりに寄り添っていただいているので、毎日安心して預けることができます」「先生方が子どもたちだけでなく、保護者にもとてもいねいかつ、親切に関わってくださいます」「先生たちが明るいです」などの声がありました。 その一方で、「挨拶がない時があります」という意見もありました。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	30	4	0	0
<p>「はい」が88.2%、「どちらともいえない」が11.8%でした。 自由意見には、「体調不良のときなどは、職員室で見ただけのようです。少し体調面で心配なことがあると早番の先生から、専門職員や担任に共有され、一日変わらなかったことなどを報告をいただけるので、助かっています。ありがとうございます」「小さな変化でも適切に説明をしていただいております、安心しております」「与薬には、都度対応をしていただけます。また、何かあれば早急に連絡をしていただけます」などの声がありました。</p>				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	25	8	0	1
<p>「はい」が73.5%、「どちらともいえない」が23.5%、「無回答・非該当」が2.9%でした。 自由意見には、「小さなトラブルであっても、ご説明をしていただいております、不満に思ったことはありません」などの声がありました。</p>				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	31	3	0	0
<p>「はい」が91.2%、「どちらともいえない」が8.8%でした。 自由意見には、「子どもの興味、関心を尊重した対応をしていただいております」「子どもに寄り添っています」「子どもに無理強いをせず、成長に合わせてくれて、とても嬉しいです」などの声がありました。</p>				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	30	3	0	1
<p>「はい」が88.2%、「どちらともいえない」が8.8%、「無回答・非該当」が2.9%でした。 自由意見には、「個人的に特別な配慮をいただくような状況にはありませんが、日頃からていねいな対応をお見受けしているのので、信用できる職員集団だと感じています」などの声がありました。</p>				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	30	3	1	0
<p>「はい」が88.2%、「どちらともいえない」が8.8%、「いいえ」が2.9%でした。 自由意見には、「いつも真摯に対応をしてくださっています」「初めての時、ていねいに説明をしていただいたので、安心しております」などの声がありました。</p>				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	23	9	1	1
<p>「はい」が67.6%、「どちらともいえない」が26.5%、「いいえ」が2.9%、「無回答・非該当」が2.9%でした。 自由意見には、「園に伝えた時の対応がとても早かったです。保護者の意見をしっかりと聞いてくれる園で、良いことも悪いことも隠さず伝えてくれていると思います」「アンケートの意見や要望に正対した回答を拝見しているので、真摯な対応だと感じます」「保護者からの要望などにも、スムーズに対応をされていると感じます」などの声がありました。</p>				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	18	7	4	5
<p>「はい」が52.9%、「どちらともいえない」が20.6%、「いいえ」が11.8%、「無回答・非該当」が14.7%でした。 自由意見には、「特別な相談などをする場面がありませんが、何かあった際は、真摯な対応をしていただけるであろうと認識しています」などの声がありました。</p>				